

知財ist研修2018シラバス

【知財ist研修2018】	
課程	実務課程
科目	契約書作成の実務 2日間
副題	～グループ演習を重視した戦略的知財契約の実際～
日程	2018年9月12日（水）・9月19日（水）いずれも10:00～17:00
講師	青山学院大学法学部特別招聘教授 石田 正泰 氏
科目別受講料	会員34,000円、一般42,000円（消費税8%含む、テキスト代含む）
おまとめ受講料	全課程おまとめ受講料（45日間）会員500,000円、一般600,000円 実務・訴訟・海外おまとめ受講料（19日間）会員280,000円、一般350,000円 実務課程おまとめ受講料（8日間）会員130,000円、一般162,000円
説明	本科目では、知的財産契約書を作成するにあたり、重要なポイント、および『知財を使う』という考え方について2日間をかけてライセンス契約、共同研究開発契約を中心に解説し、また、グループ演習を通じて戦略的知的財産契約を実践し、経営に資する知的財産業務を考慮します。
レポート、演習の有無等	2日目の講義後半の時間にグループ演習を行います。 講義中にレポート課題を提示します。希望者は講師による採点を受けることができます。（おまとめ受講者で、知財ist研修の修了証書が必要な方はご提出が必須です。） レポートの返却は、ご提出期限より2、3カ月後となります。
事前質問について（研修日より1週間前まで）	研修当日に、講師にお聞きになりたい事項等ございましたら、9/5までにメール（chizaist@jiii.or.jp宛）にて承ります。 （ご質問の内容によっては、講義時に講師より直接説明を求められる場合もございます。）

知財ist研修2018シラバス

<p>研修項目予定 (昨年度目次例等)</p>	<p>I 知的財産契約総論 1. 企業経営における知的財産、知的財産契約 2. 知的財産契約の考え方 3. 知的財産契約の意義、契機、目的 4. 知的財産契約の対象 5. 知的財産契約の種類 6. 知的財産契約の戦略、事前調査、交渉 7. 基礎、応用、戦略 8. 知的財産契約の管理 9. 知的財産契約と独占禁止法 10. 知的財産契約ドラフティングの基礎的事項</p> <p>II 実施（ライセンス）契約書 1. 知的財産契約実務キーワード 2. 特許・ノウハウライセンス契約の意義・目的・対象 3. ライセンシングポリシー 4. ライセンス契約の種類 5. ロイヤルティの考え方 6. ライセンス契約の交渉 7. 創り込み、表現、評価 8. ライセンス契約の作成手順 9. 重要なライセンス契約書の構成と主要条項</p>	<p>10. 特許・ノウハウライセンス契約の起案、交渉、調印 11. ライセンサー、ライセンシーのドラフティングの考え方 12. チェックリストの利用 13. ライセンス契約書文例 14. オープンイノベーションと知的財産契約 15. 知的財産の利用に関する独占禁止法上の指針</p> <p>III 共同研究開発契約書 1. 共同研究開発契約上の法務問題と実務的対応策 2. 共同研究開発と知的財産に関する諸問題 3. 共同研究開発と営業秘密 4. 共同研究開発契約の起案、交渉、調印 5. 共同研究開発契約のチェックリスト 6. 共同研究開発契約書の文例 7. 産学間の共同研究開発契約の課題 8. 共有特許権に関する特許法第73条</p> <p>補足：国際ライセンス契約</p>
<p>参考書籍等</p>	<p>「知的財産契約実務ガイドブック（第3版）」石田正泰著 発明推進協会発行をテキストとして使用します。（受講者には配布します。）</p>	
<p>過去受講された方々からの感想等</p>	<p>・契約に関する業務は今まで行ったことがなく、手探りの状態で、実務（演習）を行ったが、その中で貴重な経験を得られたと思う。 ・独禁法の知識が浅かったので、私にとっては難しかったです。 先生は丁寧に説明していただいたので、理解にとっても助かりました。 ・実践的な経験ができ、大変勉強になりました。 ・演習は、立場の違いを越え、交渉を収束させて行く過程が、勉強になりました。</p>	
<p>研修をご欠席される場合は。</p>	<p>・代理の方のご出席も可能です。事務局までご連絡願います。 ・ご欠席された場合は、研修にて使用したテキスト等配布資料を、後日、送付（ないし直接お渡し）いたします。 ・希望者は、講義（講師の声のみ）を録音したCDを借りることができます。但し本研修は、演習も行いますので、音声のみを聴講されても分かりにくいこともあるかと思えます。実際にご出席いただくことをお勧めしております。CDについては、事前にご連絡いただき、直接事務局まで借りに来ていただいております。（返却は郵送でもかまいません。）（貸出期間約3週間、詳しくは事務局にお問い合わせください。）</p>	
<p>弁理士会継続研修</p>	<p>本科目は、日本弁理士会の継続研修として申請中です。本研修を受講し、所定の申請をすると外部機関研修として、2日間で11単位が認められる予定です。</p>	

2018.5.10